

第 1 回

除雪機械安全性・作業性向上に関する検討会

議 事 次 第

開催日時； 平成 19 年 12 月 5 日（水） 14：00～16：00

場 所； KKR ホテル仙台 2F 磐梯

司 会； 東北技術事務所 機械課専門職

- |                                 |          |
|---------------------------------|----------|
| 1. 開会                           | 事務局      |
| 2. 開会の挨拶                        | 東北技術事務所長 |
| 3. 検討会設立趣意                      | 事務局      |
| 4. 委員紹介                         | 事務局      |
| 5. 座長挨拶                         | 座 長      |
| 6. 議 事                          | 座 長      |
| (1) 検討会の目的及び全体計画（資料－１）          |          |
| (2) 歩道除雪の安全性・操作性の向上に関する検討（資料－２） |          |
| < 討議・質疑応答 >                     |          |
| (3) 除雪作業の情報化施工に関する検討（資料－３）      |          |
| < 討議・質疑応答 >                     |          |
| (4) その他                         |          |
| 7. 閉 会                          | 事務局      |

# 「除雪機械安全性・作業性向上に関する検討会」

## 設 立 趣 意

東北地方はほぼ全域が積雪寒冷地域となっており、「雪に強く、安心して快適な地域づくり」を推進するうえでも冬期道路交通の確保は極めて重要な課題となっています。

冬期道路交通の確保を推進するにあたっては、これまで除雪機械・防雪施設・凍結防止などに関する技術開発の実施により多大な成果を上げてきましたが、一方では、昨今、高規格道路等の延伸により管理延長が増加するなかで、除雪費は減少しており更なる技術開発等により除雪サービスレベルの現状を維持しながらのコスト縮減は急務となっております。

本検討会は、このような背景のもと「歩道除雪の安全性・作業性向上に関する検討」として、現在、大半を人力施工により除雪している歩道幅1m未満の機械化施工を目的に、ハンドガイド式小形除雪機の開発・検討を進めており、平成19年度は開発最終年度として、安全装置及び操作機構の簡素化の検討を行い試作機の製作・評価を行うものとする。

また、新たに「除雪作業の情報化施工に関する検討」と題して、オペレータの作業負担の軽減及び除雪費コスト縮減等を目的に「除雪作業支援技術」並びに「除雪作業管理技術」の開発を行うこととし、平成19年度は除雪作業の実態調査及び支援装置システムの検討を行うものである。

以上の内容について、学識経験者並びに専門的な知識、経験を有する技術者等により検討を行うために設立するものです。

### 【除雪機械安全性・作業性向上に関する検討会】

第1回 平成19年12月5日 歩道除雪機の安全性・操作性向上に関する検討  
除雪作業の情報化施工に関する検討

第2回 平成20年 2月下旬 評価のとりまとめ

# 「除雪機械安全性・作業性向上に関する検討会」

## 委員名簿（敬称略）

座長	高橋 弘	東北大学大学院環境科学研究科	教授
委員	江本 平	社団法人日本建設機械化協会	除雪機械委員会幹事長
〃	佐藤 重徳	藤本建設(株) 土木部長	（古川地区維持工事）
〃	小原 秀峰	菱和建设(株) 土木部	（盛岡西国道維持工事 監理技術者）
〃	太田 幸市	山形建設(株) 舗装課長	（山形地区維持工事 協力会社）
〃	佐々木一夫	東北地方整備局 道路部	道路管理課長
〃	小松 寿	東北地方整備局 企画部	施工企画課長
〃	佐藤 彰敏	東北地方整備局 青森河川国道事務所	機械課長
〃	大澤 尚史	東北地方整備局 青森国道維持出張所	課長
〃	佐々木重和	東北地方整備局 岩手河川国道事務所	機械課長
〃	外崎 高広	東北地方整備局 盛岡西国道維持出張所	課長
〃	山尾 昭	東北地方整備局 山形河川国道事務所	機械課長
〃	黒沼 博	東北地方整備局 山形国道維持出張所	課長
〃	三浦 清志	東北地方整備局 東北技術事務所	課長
オブザーバー	斎野 純二	東北地方整備局 企画部	機械施工管理官

# 「除雪機械安全性・作業性向上に関する検討会」

## 検討の概要

東北地方はほぼ全域が積雪寒冷地域となっており、「雪に強く、安心して快適な地域づくり」を推進するうえでも冬期道路交通の確保は極めて重要な課題となっています。

冬期道路交通の確保を推進するにあたっては、これまで除雪機械・防雪施設・凍結防止などに関する技術開発の実施により多大な成果を上げてきましたが、一方では、昨今、高規格道路等の延伸により管理延長が増加するなかで、除雪費は減少しており更なる技術開発等により除雪サービスレベルの現状を維持しながらのコスト縮減は急務となっております。

現在の歩道除雪は搭乗式小形除雪機により行っていますが、歩道幅1m未満の狭小部では大半が人力により除雪を行っており、作業効率も悪く多大な費用が掛かっているため、機械化施工を実現し、作業効率の向上並びにコスト縮減を図る必要があります。

また、道路除雪は様々な沿道条件の下で路上障害物等を確認・回避しながら、車両の走行と作業装置の操作を的確に行うことが要求され、オペレータ個々の経験や能力に依存しているところが多いため、負担が大きく、作業効率低下の要因ともなっております。更に、除雪作業の出来形管理においては日報の確認や局所的な写真管理のみで行われているため、除雪作業支援技術並びに除雪作業管理技術により効率的・効果的な作業評価とコスト縮減を図る必要があります。

このような背景のもと、本検討会では次の二課題について検討を実施するものとします。

### ① 歩道除雪の安全性・操作性向上に関する検討

操作機構の簡素化、巻き込み防止装置の検討、試作機の詳細設計、現場適用性試験、総合評価の実施

### ② 除雪作業の情報化施工に関する検討

作業効率向上のための支援技術の開発について

### 【歩道除雪の安全性・操作性向上に関する検討】

歩道除雪においては現行機械（搭乗式、除雪幅1.0m）による対応が不可能な狭小部（歩道橋や植栽等の構造物により部分的に狭くなっている歩道部）について、昨年度、歩道狭小部対応可能な実験機を製作して性能試験を行い、良好な試験結果が得られたが、更なる安全性・操作性を追求するための検討を行うものである。

### 【除雪作業の情報化施工に関する検討】

除雪全般においては既存の情報化技術を活用して、経験の浅いオペレータでもベテランと同等の作業効率と品質と安全性を確保し、コスト縮減を図る除雪作業支援装置（除雪機械系）、並びに適切な除雪作業の出来形・品質を管理できる除雪作業管理支援装置（作業管理者系）から構成する除雪作業支援装置の開発について検討を行うものである。

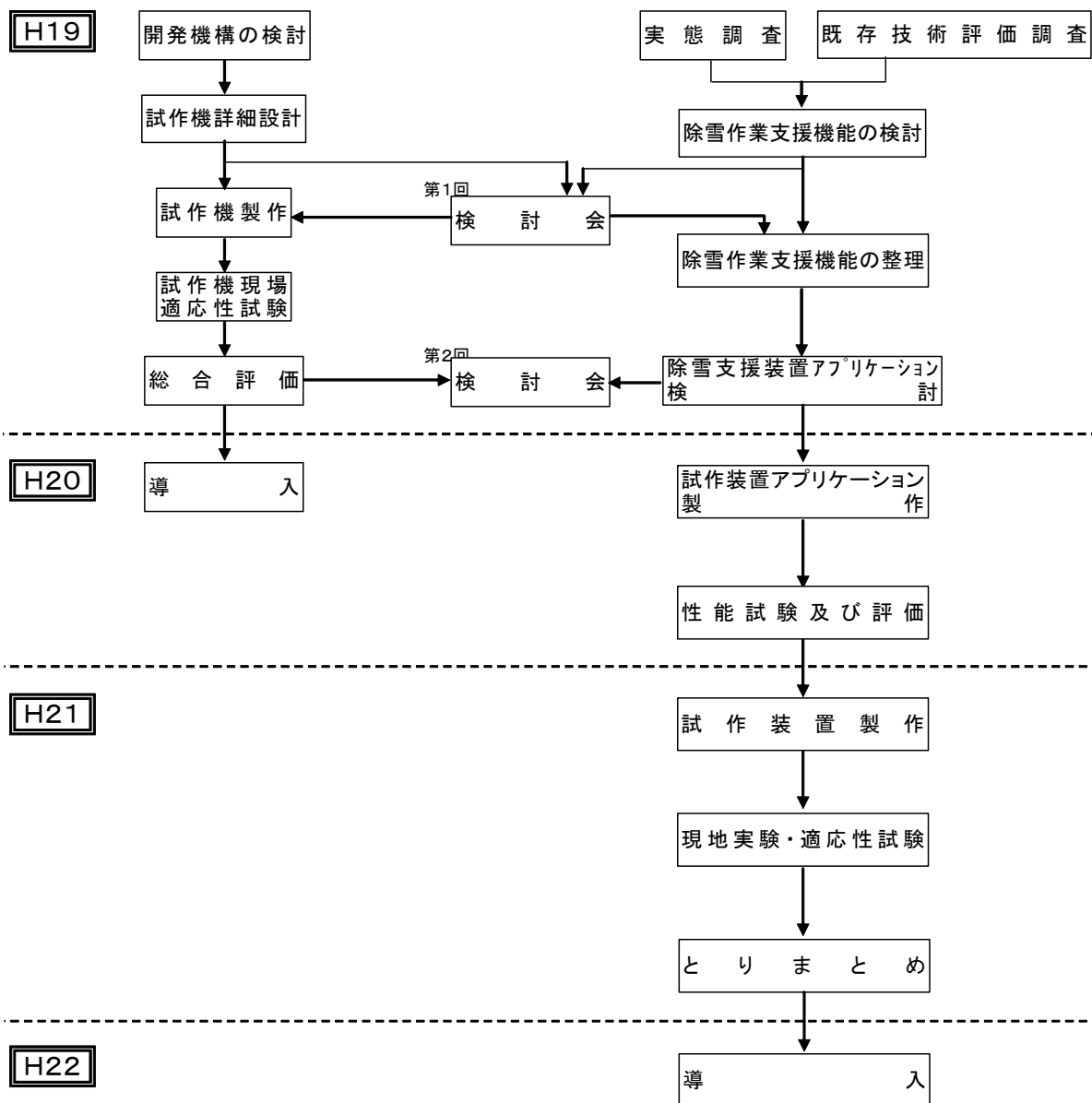
## 2. 調査検討の全体計画

別添 検討フロー 参照

## 【除雪機械安全性・作業性向上に関する検討会】検討フロー

### [歩道除雪の安全性・操作性向上に関する検討]

### [除雪作業の情報化施工に関する検討]



# 狭小型ハンドガイド式小形除雪機の開発

これまでは**人力除雪**



これからは**狭小HGで  
機械除雪 & 運搬排雪**



人力除雪に比べて

- 作業時間は1/6に短縮
- 除雪コストは1/2に削減

安全性、作業性を向上させた除雪幅0.8mの高性能ハンドガイド機

4tダンプに積み込みができます

操作機構の簡易化

歩行者の巻き込みを防止するオーガカバー装備



狭い歩道でも  
作業ができる  
横幅800mm  
の狭小サイズ

踏まれた固い雪でも除雪  
できる高出力エンジン仕様

